



『わたしのまち金沢』より

現在YouTubeでHD映像を見ることができ。全編EOS 5D Mark IIで撮影された。5D Mark IIの美点が発揮されている映像だ。撮影：苗加和毅彦／音楽：苗加琢人／編集・ディレクション：澤田和彦



● そんなときにキャノンのEOS 5D Mark IIのデモ映像をネットで見まして、これならばひょっとして動画の持ち

かなり解像度が高く、精細に見えますが、本当の感動を伝えるには今一歩だということですね。動画だけ写真なみのクオリティがあり、しかも最終的にはHDは最低条件ですね。

● 工芸品の紹介のシーンは写真データを元に構成しています。写真素材ですと、ビデオ撮影素材よりも高精細な映像にはなりますが、どうしても平面的な印象になってしまいます。

制作工程や苦労話をお聞きしたことがありました。その精緻な象嵌加工を目の当たりにして、鳥肌がたつくらい感動した記憶が強烈に頭にこびりついています。ただ、映像作品としては、肉眼で見た凄さがどうしても伝えきれなかったのです。なんとかその感動を映像で伝えられないかと常々思っていました。

EOS 5D Mark IIに興味をもたれたきっかけを教えてください。
● わたしは長年、金沢を中心に石川県で映像制作の仕事をしてきましたが、土地柄、伝統工芸を映像で紹介する機会が多くありました。ご存じのとおり、石川県は工芸王国といわれるほど、各種伝統工芸がさかんです。ある時、輪島塗の作家さんのところに取材にお伺いし、作品を見せていただきながら、



金沢の 写真家と 映像ディレクターの コラボレーションが 生んだ 新しい表現

EOS 5D Mark IIを プロは どう 評価するか？



従来のビデオカメラとは別世界のフルHD動画が撮れるデジタル一眼レフとしてプロから大きな注目を集めているキャノンEOS 5D Mark II。この新しいツールが実際にどう使われているのかをレポート。金沢の紹介映像を制作した事例を取材した。

聞き手◎編集部



◀ディレクター
オフィスリキッド
澤田和彦氏
石川県でプロモーション映像制作、ホームページ制作業務を手掛ける。インターネット創世時期からサイト制作業務を開始。
<http://www.tokusen-net.jp/liquid/>

編集はPremiere Elementsで行いYouTubeへのアップとBD作成



ブルーレイ (BD) にまで仕上げたかったので、今回のためにソニーのVAIO Type F、Adobe Premiere Elementsといったミニマムのシステムを揃えた。メモリを4GBにし、ネイティブでなんとか編集することができた。できた4分の作品はYouTubeにアップするとともに、BDに書き出した。

やや
暗いシーンで
強みを
発揮する



今回の映像の撮影は、写真家の方を起用されていますね。

●はい。たまたま知り合いの写真家の苗加和毅彦さんが、5Dマーク2をお買いになったというのを知り、やはりフォトグラファーが撮影するのが相応しいと思い、声を掛けさせていただけるところ、快諾してくださいました。

—— 苗加さんは、動画撮影の経験はお持ちだったんですか？

●まったくありません。初めてでした。ただひじょうに興味を示されて、積極的に協力していただきました。

—— なぜフォトグラファーにお願しようと思っただけか、もう少し詳しく教えてください。

●もちろんビデオのカメラマンも優秀ですが、やはりビデオは「情報」を伝えることがメインなんです。わたしがEOS 5Dマーク2を使って作りたい映像は、



情報番組というよりは、もっと空気感を伝えたい。それには動画の経験がなくても、優秀なフォトグラファーの視点が必要だろうと思ったんです。

—— 今回はパイロット版ということで、撮影のポイントは何ですか？

●実際にプロモーション映像やCM制作での課題を探るために、シズル感、背景のボケの表現、夜景、川面のさざ波を捉えてみました。地元ですから、撮影場所はわかっています。約4分の映像ですが、2日間で撮りました。わたしとしても、フォトグラファーの方とコラボレーションするのは初めてだったので、苗加さんは、撮影の場所を決め、構図を決め、OKの判断を下すのが早いのは驚きました。わたしにとってもいい経験でした。

—— フォトグラファーが撮られたと聞いて納得したのですが、まったくパンやチルト、ズームといったビデオならではの表現はありませんか。しかし、決して静止画の積み重ねではなく、動画作品になっています。実際に編集してまとめられた澤田さんとしては、どんな感想をもたれましたか？

●さすがに写真ほどのシズル感はありませんが、空気感、臨場感は充分伝えることができるかと確信しました。

つ空気感と写真の持つ精細感を両立させるのではないかと思っただけです。わたしは仕事としては、放送用のハイビジョンカメラ(HDCAM)等で各種プロモーション映像をディレクターとして制作してきましたが、写真の持つ背景のボケの美しさや解像度の高さ、シズル感のようなものにあこがれてもいましたから、5Dマーク2には思わず「これだ！」とびびっていたんです。自分でカメラを購入することも検討しました。ただ、このカメラに関しては、従来のビデオカメラマンが撮影してもその実力が生かせないのではないかといい思いもありました。



ロケ地はすべて金沢市内で、三味線専門店「福嶋三弦店」、東茶屋街、近江町市場、浅野川/梅の橋。使用レンズは、EF 16-35mm F2.8 LII USM、EF 70-200mm F2.8 L USMなど。

またこれまでのビデオ撮影とは方法を変える必要があると思いました。たとえば今回の映像でも、1シーンの持つ力が強いので、必然的に1シーンの尺が長くなります。

たしかに一眼レフのレンズですので、ズームが若干やりにくいという制約はあります。またレイトは高くても圧縮映像ですから、細かく動くものに弱いという欠点はありますが、レンズの特性を生かした撮影など、その制約を補ってあまりあるくらいの映像美を得ることができそうです。ようやくビデオ映像が写真に近づいたと感じましたね。



「4K映像になればもっとシズル感が伝わるのではないかと。デジタル一眼ムービーはこれに満足せずHDを超えて進化してほしい」と語る澤田氏。

快適に編集するには

レポート◎斎賀和彦



EOS 5Dマーク2のHD動画はすでに各所で使われ始めている。ポストプロドではなく、個人でも実現可能な編集ワークフローを模索する。

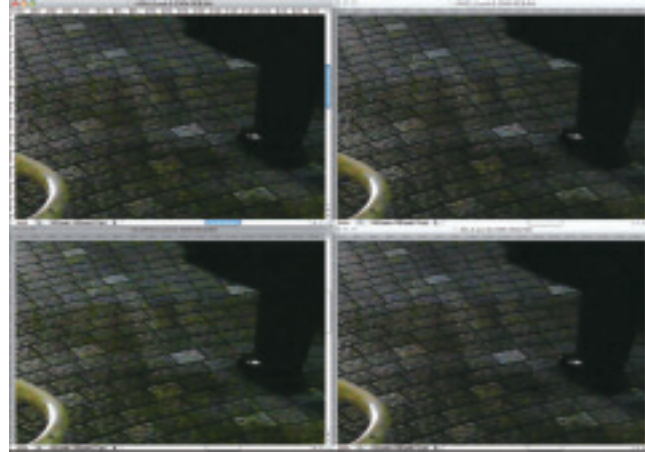
【HDMIからキャプチャー】

EOS 5Dマーク2はHDMIからフルHD出力が出るので、HDMI入力に対応したキャプチャーカードを使えばトランスコード(コーデック変換)ではないキャプチャーが可能。前回述べたようにトランスコードが素材時間の数倍かかる現状では、この方法に大きな魅力がある。

今回はAJA社のIo HDを使い、ProRes 422でキャプチャーする形で検証した。Io HDはMac側のCPUパワーに依存せず単体でProRes 422変換を行える数少ないハードウェアで、EOS 5Dマーク2のHDMI出力をIo HDのHDMI INに入力することで実時間のProRes 422トランスコードが可能になる。

当初は撮影時にHDMIからスルー出力される映像をダイレクトキャプチャーすれば、CFカードの残量を気にすることなく長時間キャプチャーが可能になるかと思われたが、実際にスルー映像をキャプチャーしてみると、明らかに1980×1080の解像度を

HDMI経由でキャプチャした画をオリジナルファイル、ProRes422変換ファイルと比較する



左上がオリジナルのH.264のファイル、右上がProRes422変換ファイル、左下が5D Mark II本体のHDMI出力からIo HDを経由して取り込んだファイル、右下がファイル変換でアップル中間コーデック(AIC)にしたもの(すべて部分拡大)。一見するとHDMIキャプチャーのほうが滑らかでコントラストも微妙に高いが、仔細にみると、ディテールはわずかに甘い。しかしもしIo HDなどを持っていて、スピード重視なら、利用する手もあるだろう。

外付けのRAID対応HDDを導入するだけで編集はかなり快適になる



コストパフォーマンスの高いeSATA接続のRAIDを試してみた。非圧縮HD編集には厳しいが、5D Mark IIから変換したProRes422ファイルには最適。SOHO環境でも充分、EOS 5D Mark IIを業務で運用することができるだろう。

持っていないことが分かった。スルー出力時には背面液晶の表示が消える(排他切換)こと、出力されたビデオに各種表示がスーパーインポーズされることをあわせて考えると、撮影時のスルー出力は簡易出力ゆえ使えるクオリティの素材にはならないと思う。そのため今回はスルー出力を諦め、収録後EOS 5Dマーク2でCFカードを自己再生した映像を使ってみた。

【ファイル変換と画質を比較すると】

再生映像をHDMI経由でProRes キャプチャーした映像と、元ファイルをCompressorで変換したものを比較してみた。

一見すると、キャプチャーのほうが滑らかでコントラストも微妙に高く綺麗に見える。変換のほうはS/Nが悪く感じられ、キャプチャーシステムの導入を本気で検討したくなる。

だが子細に観察すると、滑らかに見えたキャプチャー映像は分解能が低く、ディテールがわずかに甘い。S/Nが良いと言よりは、そこまで解像できていないようだ。コントラストについてもヒストグラムの繋がりにやや不自然さを感じる。

もともとHDMI出力をキャプチャーして使用することは裏技的な使い方もかもしれない。今回のテスト環境にお

いては、若干の違いがあったが、キャノンによると、「基本的にHDMI出力とファイルは差がない」ということなので、今後引き続き検証してみたい。ただ、ある意味、5Dマーク2を直接TVモニターに繋いだネイティブ画質がこれだとも言えるので、解像度変換や再エンコードを前提とするウェブ用途やスピードを要求される作業では有効な選択肢ともいえよう。

【快適な編集環境づくり】

画質を重視するなら、Mac環境では、やはりProRes 422変換が現状ではベストな方法だ。ProRes 422(HQ)はターゲットレートで220Mbps、今回の検証時の平均実測で225~230Mbpsにもなる大きなもの。MacProに標準搭載されるHDD(シングル)の転送レートが実測でライト250~320Mbps、リード400~450Mbpsであることを考えると、記録自体は問題ないが、マルチストリーム再生にはひじょうに心許ないのが分かる。

実際にスクラブ再生したときの追従性はシングルドライブではかなり悪く感じる(起動ディスクのムービーフォルダに素材を置いた場合)。

MacProにはHDDベイが4つあるため、これをすべて7200rpm

mのHDDで埋め、起動ディスク以外の3つをRAIDとして構築し、システムドライブと映像ファイルをおくストレージドライブを分けて運用すると、ライト1000~1400Mbps、リード1250~1500Mbpsが得られ、マルチストリームのRT編集がストレスなく実現できた。

スクラブ再生時のレスポンスもDV並みとは言わないものの、HDV並みには滑らかな追従性を見せる。スクラブのレスポンスはMP EG等のフレーム間圧縮コーデックではCPUパワーに依存するが、ProRes 422やAICといった、圧縮はシンプルな代わりに高ビットレートになるコーデックではデータストレージの速度が大きくモノをいう。

【外付けのRAIDを試す】

ドライブ性能をあげれば、マルチストリーム数やエフェクト数の増加が期待できるが、これ以上の環境構築には外部RAIDの構築が必要になる。そこで4発のHDDを搭載し、RAID 0/1/10/5の各モードに対応するMAC POWER社のHydra Super's Compo(国内取扱:アスク)を借りて試してみた。

このRAIDは比較的安価ながら前述のように多彩なRAIDモード設定

とFireWire 400/800、USB、eSATAと充実したポートが特徴。

実は個人的にはeSATAという接続方法に全面的な信頼を置いていない。様々な製品をテストしているが、RAIDコントローラー、マシンやeSATAカードの相性にセンシティブで思ったような数字が出ないことも多いからだ。それでも機器の相性が上手く噛み合うとひじょうに優れた性能を見せるのも確か。

今回は実に快適で、FireWire 800接続時の3~4倍のベンチマークを出した(4発RAID構築時)。これはMacPro内蔵RAID(3発)よりも高速だ。さらに、この時のRAID設定はRAID0(高速だがデータ冗長性はなく、安全性が低い)ではなく、RAID5(ある程度のデータ安全性を持つ)である。非圧縮HD編集にはやや厳しいが、今回のようなProRes 422マルチストリーム編集にはびつたりのコストパフォーマンスストレージだ。

EOS 5Dマーク2のHD動画は扱いにくい印象があるデータだが、このようにちよっとした工夫で一般的なノンリニア編集のワークフローに持つてくるのが可能だ。そう考えると、夢が大きく膨らむと思う。